

令和4年度 富山県農政審議会の概要

- 1 日 時 令和4年11月18日（金） 10：00～11：40
- 2 場 所 富山県民会館304号室
- 3 出席者 委員13名、代理出席4名（委員数24名）
- 4 あいさつ（堀口部長）

今年の3月末に新たな「富山県農業・農村振興計画」を策定し、本年度から、各種施策を実施していくこととなりますが、より実効性のあるものにしていくため、県内15JA、県農業法人協会をはじめとした農業者団体との意見交換を実施し、園芸や畜産振興などについてのご意見をいただいた。また、20年後、30年後を見据え、「富山県農業の将来を語る会」を開催し、有識者や先駆的農業従事者等を交えた先進事例の研究を進めております。

限られた時間であるが、委員の皆様のご意見、ご提言をいただきたい。

5 議 事

- (1) 「富山県農業・農村振興計画」の主要施策への対応状況等について
- (2) 富山県みどりの食料システム基本計画の策定について

6 審議事項①についての委員の主な意見

- ・農協や、各団体の皆さん方のヒアリングを行ったことは、大変、有意義であったのではないかと。それらの意見を踏まえて、どう結果に結び付けていくかが大事である。
- ・振興計画ができた今年3月からは、農業環境がガラリと変わっており、生産資材の高騰については、国、県、市町村の補填があるが、100%ケアできているわけではない。農産物価格、特に米は、思ったほどの値上がりはないということで、生産者はそのギャップに大変悩んでいる。資材の高騰が高止まりする中で、農業経営をどうしていくかについて、提案があっても良いと思う。
- ・米の消費は減っているので、米に替えてどうしていくかという視点が必要。1億円産地づくりを10年間行ってきたが、全てが上手くいったわけではなく、園芸振興は大変だと思う。1億円産地づくりで成功したハトムギの生産拡大が止まっている。生産振興する品目の選定はできるが、現場では振興の仕方がわからないという感じがする。出口戦略も含めた考え方の整理が必要であると思う。

- ・スマート農業は、労働力も緩和されるため、総論は賛成であるが、初期投資が大きいので実装できない状況である。機械を買ったら終わりではなく、維持することについても検討していただきたい。スマート農機は令和4年で350台導入となっているが、ドローンはスマート農機に当たるのか教えてほしい。

⇒(事務局)

- ・収量品質の不安定など、1億円産地での成果と課題を踏まえて、今年度から稼げる園芸産地づくりを進めている。県、市町村、JAなど関係機関が一体となって産地に応じた取組みを進めている。

⇒(事務局)

- ・スマート農機は価格が高いことが全国的にも問題となっており、シェアリングや広域利用で利用コストを下げる取組みを進めている。
 - ・目標指標⑱スマート農機の導入台数は、トラクタ、田植機、コンバインの台数であり、ドローンの導入台数は・別に指標があり、⑱の指標には含まれていない
- ・県野菜出荷組合が「農業の将来を語る会（園芸振興）」に呼ばれなかった。各地区、農協ごとに会員がある野菜農家を代表する組織なのになぜ参加できないのか？

⇒(事務局)

- ・将来を語る会は、若い農業者を中心に意見交換や先進事例を学ぶ場として実施したもの。委員の意見は今後の取組みに活かしていきたい。
- ・県内の山とか海とか里とか都市から出る有機資材を集めて堆肥を県独自で作って、それを園芸とか米とか畜産に使ってブランド化していくというような循環システムに挑戦してみてもどうかと思う。市民も巻き込んだワンチームで農業の未来をつくり上げることができるのではないかと。
- ・魚津清掃公社の堆肥や、魚津市内の農家さんの鶏ふんを使わせてもらって米作りをしているが、消費者さんの共感とか反応が確かであると実感している。台湾でも日本の有機農業について信頼が置けるということで取引もしていただいていることもあり、こういう栽培方法をダイナミックに県内で広めていけたら農業の未来は明るくなるのではないかと。

- ・米の生産は、農業政策の核をなしており、体に染みついているため、園芸生産に切り替えると言われてもできない状態である。園芸産出額が全国ワースト1になったことは承知しているが、砺波市のタマネギについても何年もかかって成功していることや、水田を畑地に替えるとなれば、4年、5年間収入がないことも考えられる。5年以上耕作していない水田は、水田利活用の補助金の対象にはならないというようなことが言われているが、園芸作物の結果が出るには時間がかかるので、国に対して補助金の対象から外れないように強く要望することや、県としての対策や計画を立てて進めてほしい。
- ・魚津では新川大根を作っているが、市場に出荷すると相手が値段をつけることになり、収入の計算ができない。県の計画を進めて野菜が余った場合、それはどうなるのか、県外に売ることにはできるのか。農業参入する人にとって、そういった環境を整えてほしいと思う。
- ・園芸化については、勇気もエネルギーもすごく要ることで、みんなでちょっとずつ勇気を出し合って、次の世代に何を残していけるか、頑張っていきたいと改めて思う。
- ・資料6の米の産出額の目標について、中間目標で産出額が下がっているが、富富富、有機、輸出も広がっていくのに、それでもお米の産出額が下がっているということは、需要に基づいてこの額になっているのかを確認したい。

⇒（事務局）

- ・高品質な米を生産し、富富富も拡大し、米価の確保に取り組んでいるが、主食用の需要が減少していることも考慮して、産出額の目標値を算出していることをご理解いただきたい。
- ・富山のハト麦茶を今日用意していただき感謝。このように各地区それぞれの農産物や商品が提供されているということは本当にありがたく、これからもお願いしたい。
- ・農業は、これから若者たちが背負っていくと考えると、これまではへりを使った農業をやっていたが、これから先はドローンを使った農業ができないかと考えている。
- ・携帯電話でバーコードを使った投稿をすとかというのは楽しい取り組みだと感じる。このようにコンテストとか、楽しく参加できるというものをたくさん用意していただければよい。

- ・資料7のみどりの食料システムについて、化学肥料を使わずに温室ガスの削減に取り組んだ農家さんには、お金は無利子で貸しますよ、税制優遇しますよ、だから、そういう農業に取り組んでくださいねということだけの計画であるとするならば、いろいろ準備が足りていないと思う。作られた農作物をどう判断して、どう受け取って、どう価格づけをしていくのかといったところが考えられていないと思う。
- ・県内の量販店で有機コーナーを設けているスーパーというのは、ニーズがあるから設けているわけではなく、企業として社会的な役割とか責任を果たしているというPRのために、損をしてでもコーナーを設けているというのが現状である。頑張っって有機野菜を作ったけれども、売れないということになったならば、どうするのか。有機野菜を識別して流通させるような体制がとられているのか謎であると思っている。
- ・法律が先行してこういうことに取り組んでしまうと、なかなか現場は混乱するだろうと思う。有機農家さんが、全国で点々と頑張っておられる方がおられるが、基本的に小ロットで物流網の厳しい中、野菜よりも運賃が高いということになっては続かない。例えばO i s i xというベンチャー企業さんでは、農家さんから直接買い取って、全国に宅配で届けることをやっている企業もあるが、そういう流通ありきでの法律ではないと思うので、地域の農協、市場、流通という受皿も考えて取り組んでいただきたい。
- ・県では、生産に係ること、基盤整備に係ること、園芸、流通とか販売とか、たくさんの分野で計画を持ち、それぞれやっている。今回、農協関係の方々、生産の方々を中心にたくさんの意見を聞かれたというのは、今までなかったことで、非常によかったと思う。県の一つ一つの個別の計画を縦糸とするなら、農政審議会では横糸でつないで、農政を織りなしていただきたい。
- ・圃場整備をして担い手が育つ環境をつくったら、とやま農業未来カレッジから新規の就農があった、その方が頑張っって農業委員とか農協の役員なんかもやっていって、人が育っていますよみたいなことが農政審議会でも1つでも2つでも報告されれば、それが励みになる。
- ・令和2年に県内の農業高校生が農業関連で就職をしたのは、卒業生全体の就職が55.6%と半分以上の中で、14.1%という少ない値になっている。それに対し、工業科の場合は関連就職が59.8%と6割に近い値となっている。高校生が農業の道に進むというのは、説明とか就農意識を高める取組みの結果次第ではないかとも感じる。

- ・工業科の生徒の関連就職が高いのは、企業さんとのパイプがもうできているからそこに就職されるのではないかと思う。受入れ側のマッチングということも資料に書いてあるが、マッチングからパイプというような強いつながりがあると高校生も農業に関する就職が多くなるのではないかと思う。
- ・農業生産そのものの人材確保は、もう地域の中では難しいとみえるが、加工品の技術に関しては地域内での担い手の可能性はまだまだあると思っている。70代のお母さん世代が一生懸命加工品を作っておられるのを、どういうふうに継承していくかということも大きな課題があるので、検討していただきたい。
- ・入り口は違うが、関わる人を増やすことで農業生産そのものの担い手への循環にもつながるのではないかと考え、地域の中での担い手と地域の外からの担い手というところをうまく有機的につながるように計画していただければいいと思う。
- ・酒かすを給与したブランド牛など、飼料に特徴をつけて展開しているようなプロジェクトもあるので、園芸の中でもそういう特徴づけた肥料を使うことも考えられるなら、地域資源と絡めて検討していただきたい。
- ・新しい計画を実現するためにいろんな人の意見を聞いて、知恵を集めて実施していくというのは非常にいいことだと思うので、ぜひ、コロナ禍でできることは直ちに具体化してもらい、来年度の政策に反映していただきたい。
- ・とやま農業未来カレッジにおいて2年目コースの設置を検討していることだが、他県では2年制が主流の中で、富山県はとにかく農業をしたい人だけに入学してもらって、1年で養成していくという全国的に非常にまれな形で続けてきて成果を上げていると思っている。今後、2年目コースについても検討するというのであれば、実効性のある就業に結びつくような専門性を高める、そういった富山県独自のやり方を検討していただきたい。
- ・とやま農業未来カレッジで作られた園芸品目を富山短期大学で調理実習をして、どんな料理に創造できるかということを行っている。今までなら紙媒体で調理方法を確認していたが、今はスマホとかを見ながら調理している人たちが大半で、そういった動画を見せるとか、野菜の使い方はこうするんだよということと一緒にアピールできるようにしていけば、先ほどの議論のあった出口というところにつながっていくのではないかと思う。

- ・県から飼料高騰についての支援いただいたこと、畜産研究所で高品質豚肉の系統維持など支援していただいで感謝。
- ・堆肥でも土壌改良に牛糞が良く、即効性では鶏糞が良く、その中間が豚ふんという話も聞いているが、耕畜連携を進める中で堆肥の使い方をもう少し教えていただきたい。
- ・飼料用米の給仕の仕方も教えていただきたい。
- ・南砺市では、みどりの食料システムということで有機農業を進めている。中山間地域、特に山間地域を活性化したいということで、五箇山地域で有機農業を進めて、米と伝統野菜の赤カブ、五箇山かぶの取り組みをしている。ただ、有機農業を行う面積を拡大することになると、販売が非常に問題になると思う。
- ・南砺市では、姉妹都市である東京の武蔵野市とECサイトを構築して直接のやり取りをしていることや、「食べチョク」というECサイトを活用した販売を行っている。
- ・市内の飲食店とのマッチングということで、農家さんとの接触の機会や加工・販売の機会をつくっているが、足りないところがあると思っているので、県全域で取り組んでいただけるようお願いしたい。「食べチョク」では、群馬県など県全体で取り組んでいるところもあるので、そういう取り組みもいいと思う。有機農業を広げるためにも販売戦略というものをしっかり取り組んでいただきたい。
- ・食の安全保障という意味で、米や園芸作物だけに限らず、大麦、大豆も含めてトータルで検討いただきたい。
- ・ハウスで園芸をする際に簡単に利用できる支援があればいいという意見が聞かれる。
- ・有機肥料をまくと10アール当たり2,000円、町で独自に支援しているが、散布すると経費がかかるということでなかなか実施されない。県でも有機農法に取り組む方への直接支援があればよいと思う。
- ・圃場を整備してから年数がたって、農地が老朽化しているが、整備に莫大な費用がかかるので、国に要望できないかと思う。
- ・人口が減って、それ以上に一人一人の米の消費量も減っているということで、積極的に米の消費拡大に取り組んでいただきたい。

【会長】

- ・園芸の振興で、もう少し強力な対策や方針をしっかりと出してほしいこと、意見の吸い上げ方に弱いところがあることも含めて、もう一つ踏み込んだ形で園芸振興していただきたいという要望があった。
- ・スマート農業がこれからどのように入っていくのか展望が見えないが、特に人材育成ということを考えたら、技術的な誘導もしていく必要があること。
- ・循環型農業について、そういう時代の要請もあるので、しっかり考えていただきたい。有機や特別栽培の農産物についてのフードシステム、フードチェーンがまだ十分つくられていない状態なので、十分強化しながら対応していくことへの提起があった。また、出口はもちろん必要ですし、入り口の堆肥の在り方も問われているので、地域全体としてチェーンができていないとなかなか生産も安定しないので対応していただきたい。